

2021.4.22

ウォンテッドリー、コロナ禍の転職と副業に関する調査結果を発表

コロナ禍転職理由として6割が「仕事内容のやりがい」と回答し、「給与水準」は約4割に留まるという結果に
全体の3人に1人が、年収800万以上の層では4人中3人が副業を行っているという結果に



ビジネス SNS 「Wantedly」を運営するウォンテッドリー株式会社は、コロナ禍の転職、副業に関する調査結果を発表します。

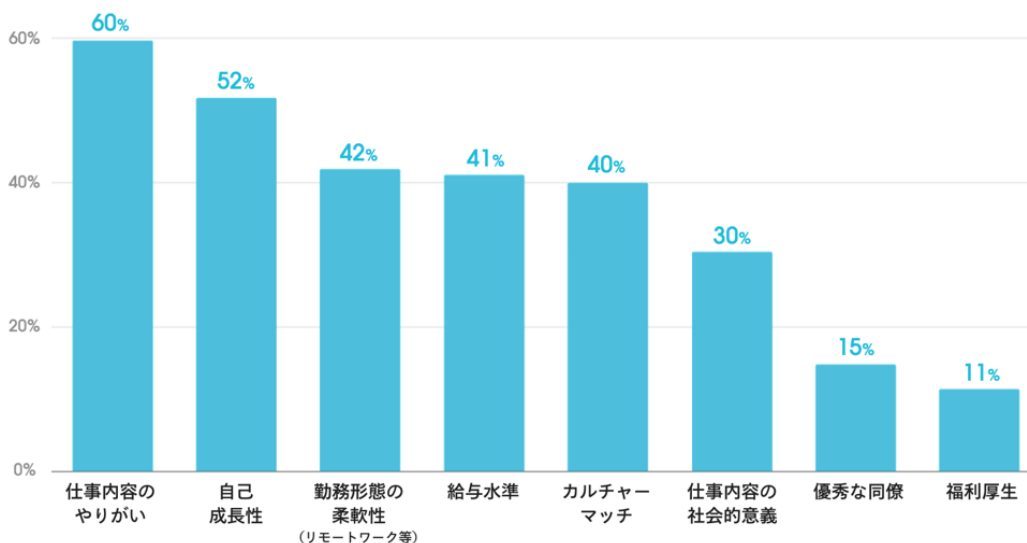
コロナ禍における転職理由1位は「仕事内容のやりがい」

ビジネス SNS 「Wantedly」ユーザーに対し、2021年2月22日から2月26日にかけて、1年以内に転職したコロナ禍転職者、計267名を対象に「コロナ禍における転職・働き方に関する調査」を実施しました。

■ コロナ禍転職理由の1位は「仕事内容のやりがい」となり、4位の「給与水準」の1.5倍の回答数

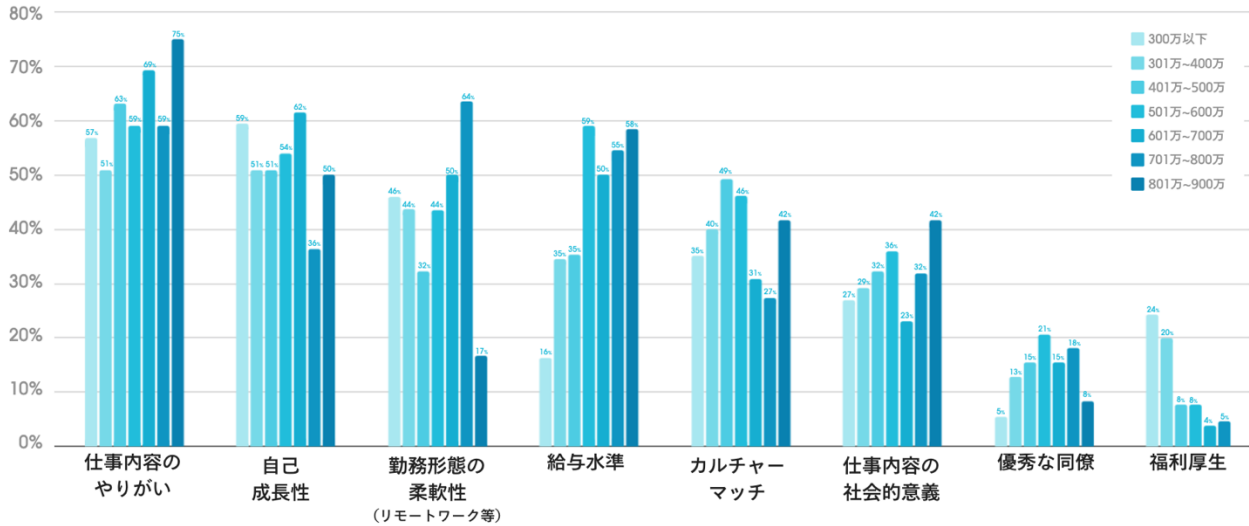
直近の転職において、重視したことを聞いたところ、「仕事内容のやりがい」が60%で1位、2位が「自己成長性」で52%、「勤務形態の柔軟性」が42%で3位、「給与水準」が41%で4位という結果になりました。

Q. 直近の転職において重視したことを最大3つまでお答えください (n=263)



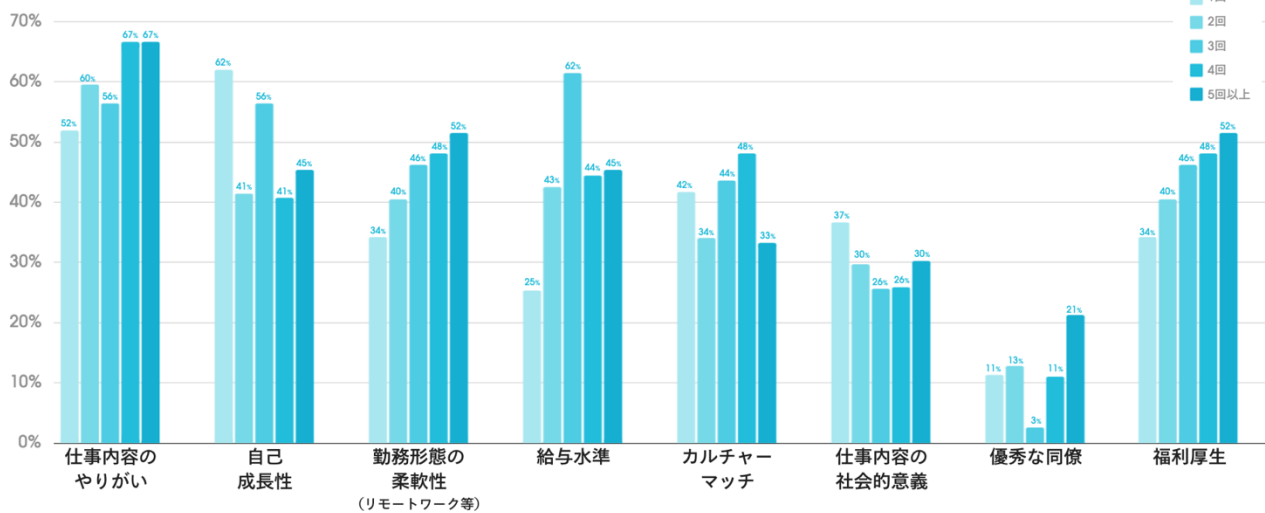
■ 年収別の転職理由を見ると、年収増大に応じて「仕事内容のやりがい」、「給与水準」が増加する傾向に
 年収別転職理由では、「仕事内容のやりがい」、「給与水準」といった項目に年収の増大に応じて増大傾向
 が見られた一方で、「福利厚生」には減少傾向が見られました。

【年収別】 Q. 直近の転職において重視したことを最大3つまでお答えください (n=263)



■ 転職回数が増えると、転職理由においてやりがいの他、勤務形態の柔軟性、福利厚生を重視する傾向に
 転職回数別に転職理由を見ると、転職回数を増すごとに「仕事内容のやりがい」やリモートワークなどの
 「勤務形態の柔軟性」、そして「福利厚生」を重視する傾向が見られました。

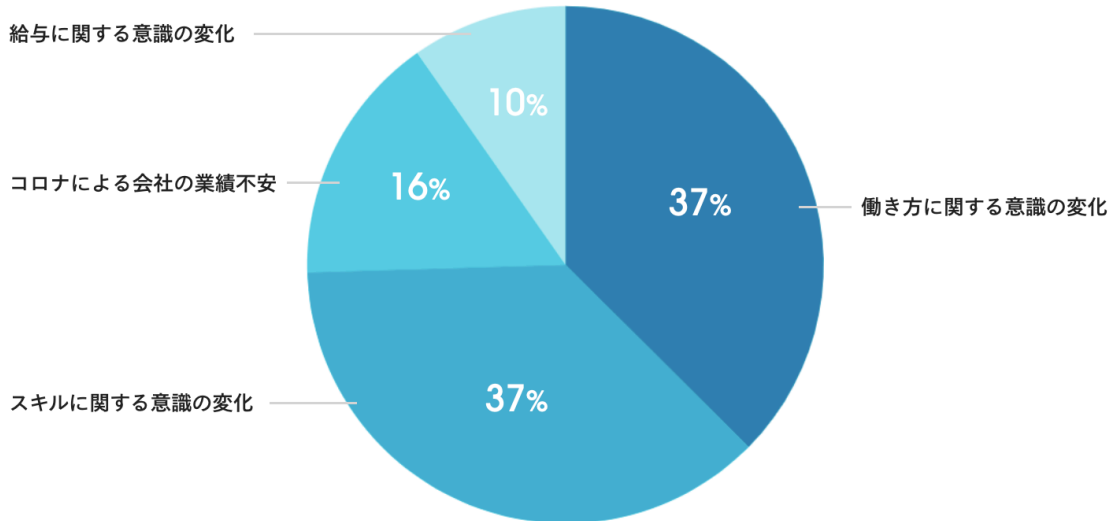
【転職経験回数別】 Q. 直近の転職において重視したことを最大3つまでお答えください (n=272)



■ 直近の転職を考え始めた理由は働き方、スキルに関する意識の変化が74%を占める

コロナ禍転職者が転職を考え始めたきっかけは「スキルに関する意識の変化」「働き方に関する意識の変化」が37%で同率1位となり、給与に関する意識の変化と回答した人は10%という結果に。働き方が変化する中で今後の働き方や、身につけるべきスキルなど、キャリア形成関連の回答が大半を占めたのではないかと思います。

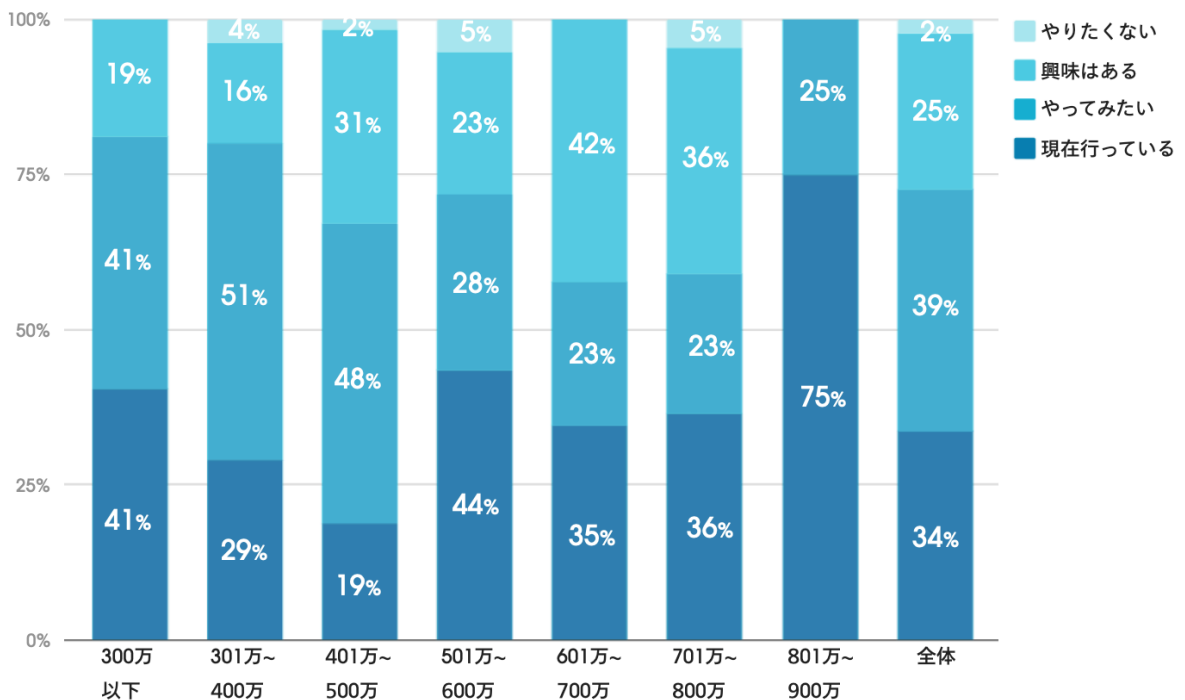
Q. 直近の転職を考え始めた理由をお答えください (n=267)



■ 年収800万円の層の75%が副業を行っていると回答

コロナ禍転職層の中で、副業を「やりたくない」という回答は殆ど見られませんでした。副業を行っている割合に着目すると、年収800万円の層が75%と、全体の34%に対して倍以上の割合を占めるという結果となりました。

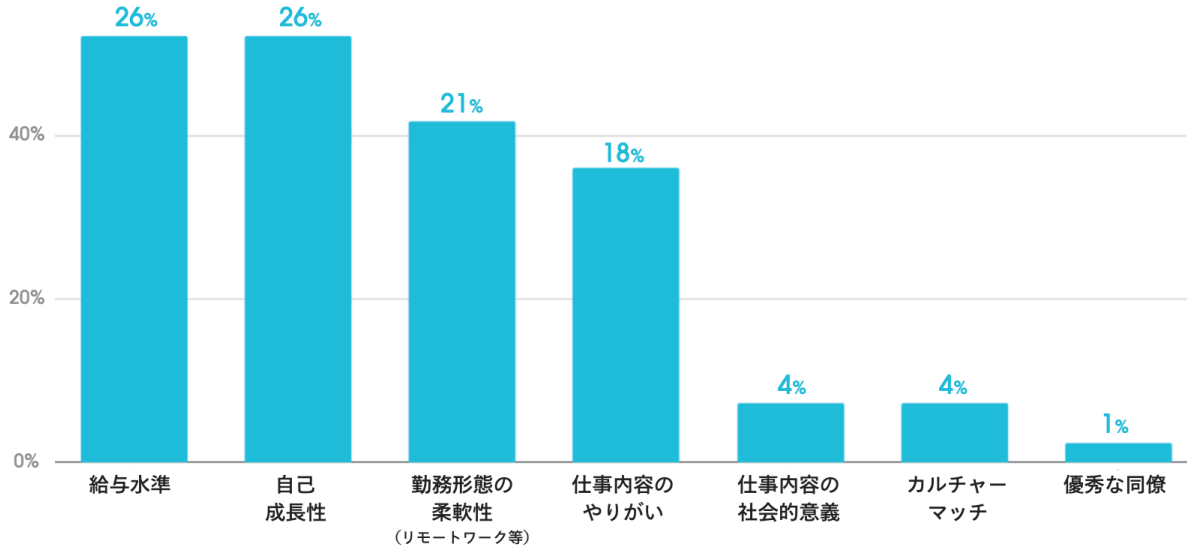
Q. 副業意欲に関して当てはまるもの以下よりお答えください (n=267)



■ 副業に対して最も求めることの上位に着目すると、転職理由と1位と4位が逆転

副業に対して最も求めることの1位が「給与水準」(26%)、4位が「仕事内容のやりがい」(18%)となり、転職理由とは逆転する結果に。自己成長性(26%)、勤務形態の柔軟性(21%)は転職理由と同様にTOP3を飾るという結果となりました。

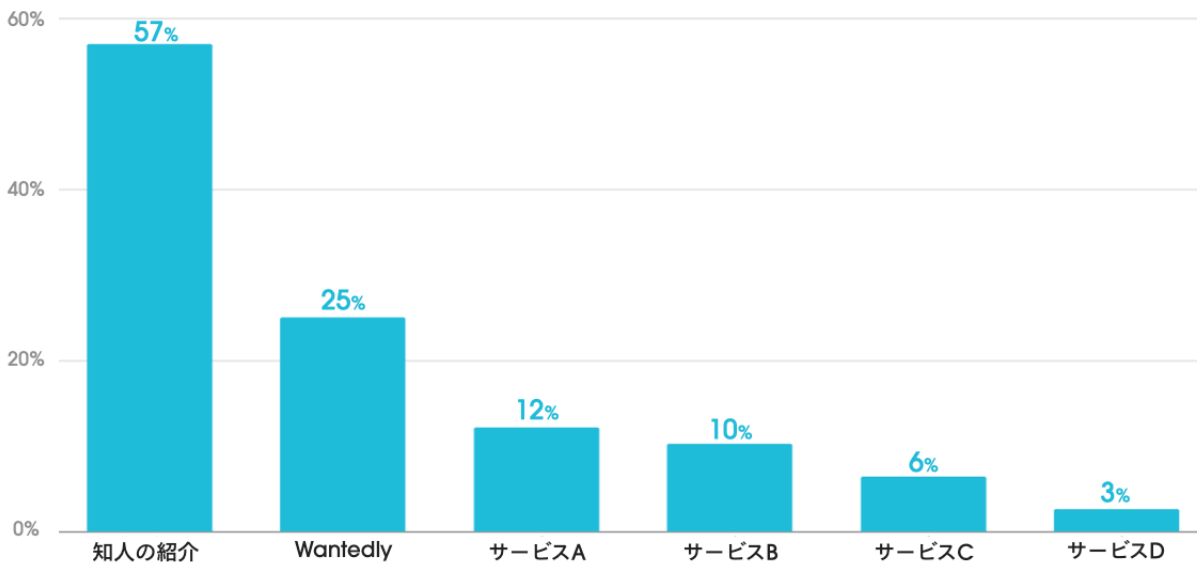
Q. 副業に対して最も求めることを以下よりお答えください (n=249)



■ 副業の探し方、1位は知人の紹介という結果に

副業の探し方はトップの「知人の紹介」が57%と、2位の「Wantedly」の25%の倍以上を占めるという結果に。人と人とのつながりの重要性が感じられる結果となりました。

Q. 副業をどのように見つけるか以下よりお答えください (n=260)



コロナ禍転職理由に関する考察

今回のコロナ禍転職者に関する調査を通じて、転職理由の1位が「仕事内容へのやりがい」ということが判明しました。これには大きく2点の要因が考えられます。

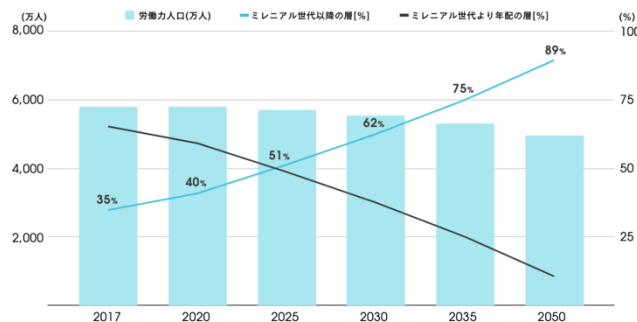
1点目は2020年10月に公開した資料「[モチベーションから紐解く 自律型組織の作り方](#)」において言及した様に、仕事の意義を重視する価値観を持つミレニアル以降の世代が台頭[※]してきている点。

※ミレニアル以降の世代は2025年には全労働人口の過半数を占めると推測されています。

1. コロナ前、そしてコロナ後の社会の変化

新たな世代の台頭

ミレニアル世代以降の労働人口が2020年で約40%、2025年には過半数を占める見通し。



WANTEDLY ©2020 Wantedly, Inc.

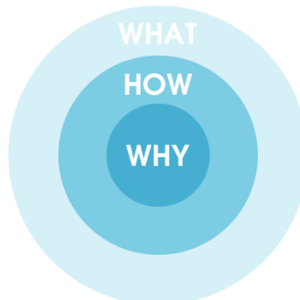
(出典) 労働政策研究・研修機構「労働力受給の推計」より

2点目としてはコロナショックにより、企業のミッションや理念を「WHY」とした際の「HOW」と「WHAT」にあたる働き方や事業内容がめまぐるしく変化した点。「HOW」と「WHAT」が劇的に変化してしまう状況下で転職先を考える軸として、普遍的な「WHY」、つまりその会社が目指すことに共感できてやりがいを感じられるかどうか、という点が重視されたのではないかと思います。

4. 「共感」の定義と実装方法

共感の重要性

コロナショックを始め、不確実性が大きい社会において、事業として何をどのように達成するか、つまりWHATやHOWの部分は流動的です。変わらないもの、それは会社が存在する意義を示すミッション、WHYの部分であり、理想に掲げるビジョンこそが変わらないものと言えます。



WANTEDLY ©2020 Wantedly, Inc.

ビジネス SNS「Wantedly」がこれまで創出し続けてきた、共感を軸にした人と会社との出会いへのニーズの高まりが、コロナ禍転職者を対象とした調査結果から浮き彫りとなりました。

ウォンテッドリーは、企業の潜在転職者への認知形成、共感を軸とした人と企業の出会いの創出を提供しながら、入社後の従業員の定着、活躍を支援するエンゲージメント事業を推進することで、Wantedly が「はたらくすべての人のインフラ」となる世界の実現を加速させてまいります。

ウォンテッドリーについて

ウォンテッドリーは、『シゴトでココロオドルひとをふやす』ために、はたらくすべての人が共感を通じて「であい」「つながり」「つながりを深める」ためのビジネス SNS「Wantedly」を提供しています。2012年2月のサービス公式リリースから現在まで、登録会社数 40,000 社、個人ユーザー数 300 万人を突破し、国境を越えて『はたらくすべての人のインフラ』を創っていきます。

<会社概要>

会社名 : ウォンテッドリー株式会社
URL : <https://www.wantedly.com>
本社所在地 : 東京都港区白金台 5-12-7 MG 白金台ビル 4F
代表取締役 : 仲 暁子
設立 : 2010年9月

事業概要 :

300 万人以上が利用するビジネス SNS「Wantedly」

- 気軽に会社訪問ができる Wantedly Visit

- 活躍を共有する SNS Wantedly People

ビジネス向け

- 採用マーケティング

- エンゲージメント Suite